紫金山公園の目指すべき姿について

市の担当者から案の内容を説明後、各グループに分かれ、足りない視点や、わかりやすい表現の工夫などについて、意見を出し合いました。主な意見は右の通りです。

紫金山公園の目指すべき姿（案）

抜粋

（注）第４回ワークショップ時点の内容です。

公園の課題

①自然環境や歴史の保全

紫金山公園は市街地の中で豊かな自然を感じられる貴重な空間となっています。2001年にはこれらの自然や歴史的な資源の保全、活用に向けた「吹田風土記の丘・紫金山公園基本計画」を市民参画により策定し、整備が行われてきました。計画の基本的な考え方や、これまでの取組を踏まえつつ、魅力を発信するデザイン力を高めたり、地域における生物多様性保全に知見のある民間事業者などとの連携など、新たな風を吹き込むことも必要です。

②安心・安全な利用環境の確保

紫金山公園は起伏に富み、市民ボランティアによる散策路整備など、健康づくりや身近で気軽に心身のリフレッシュが図れる場ですが、樹木が鬱蒼と茂っていて「近寄りがたい」と感じている利用者もいます。公園内の複数の広場が分断され、場所のわかりにくさ、移動のしづらさが感じられます。また、広域避難地であることから、防災機能のハード・ソフト両面からの充実が求められます。より多くの人が紫金山公園の魅力を感じることができるようにするためには、安心・安全でわかりやすく、訪れたくなる利用環境の確保やバリアフリー化、防災機能の向上が必要となります。

③市民活動の次世代への継承

現在園内では市民団体による環境保全活動が継続的に行われていますが、メンバーの減少なども見られるようになっています。将来にわたって紫金山公園の魅力を維持・向上させていくためには、現在の活動を次世代へと引き継ぎながら、市民による新たな利活用を促し、市民、事業者、行政など、多様な主体が協働して公園を利用・管理する持続可能な仕組みを考えていくことが必要となります。

魅力向上にむけた理念

*Mori Mori 里山*Park*

「人 × 活動 × 交流 × 持続」

～つむいでめぐってまざってつづける　吹田の真ん中　紫金山！

※ここで言う里山とは、紫金山公園の象徴的な樹種であるコバノミツバツツジに日の光が当たるよう、定期的に常緑樹の間引きなどを実施し、明るい樹林地が形成・維持されるような自然環境

目標像（パークビジョン）

個性と活力のある都市づくりを実現！

■国の史跡や博物館、里山など他にはない特徴を、市民など多様な主体とともに、デザインや様々なツールで発信していきます。

■北側と南側の周遊性を高める、利用者がそれぞれ異なる地形や特徴を楽しみ健康づくりに活かすなど、Well-being に貢献できる公園を目指します。

つながりを実感できる暮らしを実現！

■自然環境保全や環境学習を始めとする市民活動が継続できるよう取り組み、公園協議会の設置など多様な主体が参画する公園を目指します。

■地域に受け入れられるイベントなどを通じて、異なる世代や分野で活動する市民が交流し、新たなつながりが生まれる機会を創出します。

災害に対してレジリエントな都市を形成！

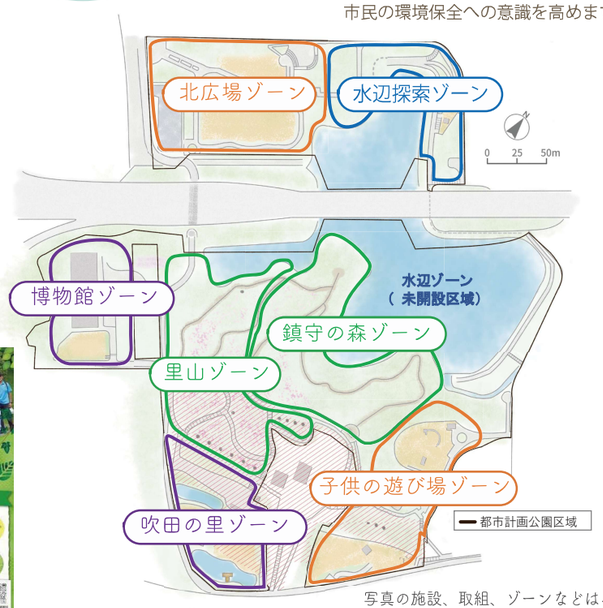
■災害時に活用できる施設や、グリーンインフラの持つ延焼防止や雨水貯留など多様な機能を活用できる公園を目指します。

■平常時からイベント利用などを通じて、災害時の対応につながるような、防災コミュニティ形成の場を目指します。

生き物や環境と共生する都市を形成！

■都市地域に残る貴重な自然として保全活動に取り組む中で、市民団体と連携し、自然共生サイトへの登録や、民間事業者とのマッチングなど、ネイチャーポジティブの実現、地域の生物多様性向上に貢献する空間を創出します。

■市民が自然に触れることができる空間として活用し、地域の自然環境の重要性を発信するとともに、市民の環境保全への意識を高めます。



写真の施設、取組、ゾーンなどはイメージであり、決定した事業計画ではありません。また、ゾーンの全範囲で展開するものではありません。

トイレの改修

ドッグランの設置

活動の PR チラシ

水辺の散策路整備

遊具の補修・更新

グループワークでの主な意見

自然、生き物環境について

■自然を残す公園であり、吹田市の生物多様性の拠点と位置づけてはどうか。

■紫金山みどりの会が環境省の「自然共生サイト」へ登録準備中。きちんとした管理と調査が必要。

■環境教育の場として活用できるようになればよい。

■昔はカモなどが多かったので、野鳥が来やすい整備ができないか。
（釣り人立入禁止、池の中に島設置など）

■特定外来生物の駆除などの対応が位置づけできないか。
（ザリガニ、ブルーギルなど）

■市民と協力して生き物調査を実施してはどうか。

情報発信や、意見を聞く場、方法について

■紙媒体や市ホームページでの情報発信は弱い。

■パブコメの情報発信に対する取り組みを考えてほしい。

◇公園内や公民館に QR コードを設置

◇児童センターや赤ちゃん検診などのシーンで子育て層の声を取り入れる

◇学校など通じて地域の子どもたちの意見を聞く

◇Instagram でもパブコメを募集

■自然環境や保全活動についての理解
紫金山公園の魅力を向上させるために、わかりやすい表現で情報を発信し、地域の人々や訪れる人々に参加を呼びかけることが重要。

目指すべき姿（案）の内容について

■カタカナや専門用語（例えば「レジリエント」）については、一般の人々にも分かりやすく表現すべき。

■民間事業者に関してはもっと議論を深める必要がある。

■釈迦ヶ池、博物館との連携は非常に重要だが、ワークショップではあまり意見を出せていない。

■具体的な事例の写真を掲載してもよいのか。

■パークビジョンの「都市を形成」という表現は分かりにくい。

■生物多様性に知見のある事業者はいるのか。

今後の整備について

■もっとバリアフリー化すべき。

■池を周遊できるようにしてほしい。

■ドッグランの設置。

■ステージの整備や発表の場づくり。
（音楽、自然との調和）

■階段への手すりの整備。

■広域避難地として、広場には最小限の施設設置に留めるべき。

■ビジターセンターの計画は今後も重要な役割を果たすべき。

■運動・スポーツが行える環境の整備。

■おむつ替えや授乳スペースの確保。

■自販機がほしい。

今後の管理運営について

■市民協働による公園づくりが重要。

■指定管理者には市民と意見交換ができる団体を。

■既存の活動団体や今後活動したい団体を含めた協議会を発足してほしい。

■公園使用料をおさめてもらい、公園を整備している団体に還元しては。

■事業者の利益だけではなく、公園管理を重視。

■小学校・地域との連携。

■継続的なイベント開催。

参加者の声（ふりかえりシート抜粋）

▶次年度の社会実験など実施予定とのこと、継続することが必要と思うので大変良いと思います。

▶１年間ありがとうございました。貴重な体験をさせていただき、子どもたちの楽しむ姿もたくさん見ることができました。

▶お疲れ様でした。これで終わらず今後も継続して関わりを持つつもりです。この取り組みを通してみどりの会も成長することができました。

▶いろんな世代の人と関われたのがよかったです。

▶知人に誘われ参加しました。終わりごろになってやっと面白さに気づいたところです。できればまた参加させていただきたいと考えています。

▶小学校や地域の防災とも連携してとても有意義なイベントをほぼボランティアで開催できた事はすばらしい事だと思う。

▶ワークショップ後も、市独自で事を進めるのではなく、地元や関係団体への説明・意見聴取などを行っていただきたい。

▶こどものワークショップもあればよかったなと思いました。

▶長期間にわたりワークショップ開催、ありがとうございました。意見集約の難しさを実感しました。今後も機会があれば一緒に考えていければと思います。

▶目指す姿は、“市民主体”の視点を忘れないでください。茨木市「おにクル」のように、市民のチカラを活用した都市公園の姿を紫金山で実現していきたい。

紫金山公園をテーマに「吹田クロス」も作ってもらいました

基本は口ゴの左右に言葉を入れるだけ！

紫金山公園 人 Suita Cross 魅力アップ⤴

「吹田クロスロゴ」は吹田市が持つ様々な魅力を“掛け合わせる”ことで、新たなアイデアが生まれることを表現しています。

大藪（おおやぶ）先生からのコメント

今回のワークショップでは、次年度の社会実験や紫金山公園の目指すべき姿（案）について活発な議論が行われました。特に地域住民の主体的な関与、防災機能の強化、子供たちの意見の反映が重要であることが確認されました。

ワークショップは一旦解散となりますが、いただいた意見を精査し、次年度以降の社会実験や公園の将来像に活かしていくことが必要です。

また社会実験で得た成功体験を活かして、地域にとって魅力的な公園作りにみんなで取り組んでいければと思います。今後とも紫金山公園の発展にご理解とご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

今後のスケジュール

「紫金山公園の目指すべき姿（案）」を作成
ワークショップでいただいた意見などを踏まえて作成します。

↓

パブリックコメントの実施
令和７年3月24日から4月 24 日まで

↓

「紫金山公園の目指すべき姿」の策定・公表

↓

社会実験の実施
来年度の社会実験は SNS などを通じて
あらためて参加者を募集します

↓

公募条件の検討、予算要求など

↓

指定管理者の公募 / 再整備に向けた設計・工事

市の担当者からのコメント

１年以上にわたり、ワークショップにご参加いただき、ありがとうございました。ワークショップでは参加者の思いや、紫金山公園でやってみたいことなどを把握したうえで、市の考えや進めたい取組と合わせ、目標像などの方向性を「目指すべき姿」に盛り込む形で進めました。

至らない点もあったかと思いますが、目指すべき姿を多様な主体と共有しながら、引き続き、今後の再整備や管理手法の検討などに取り組んでまいります。

市民の皆様には引き続きご理解ご協力をお願いします！

ぜひフォローをお願いします!!

Instagram やってます！
【公式】紫金山公園
「みんなでつくる紫金山公園プロジェクト」

ご意見はこちらにお寄せください！

発行：吹田市土木部公園みどり室（担当：姫井、福山）
TEL：06-6834-5364　mail：dousei-kouen@city.suita.osaka.jp

みんなでつくる
紫金山公園プロジェクト

第４回 最終回

ワークショップ News Letter

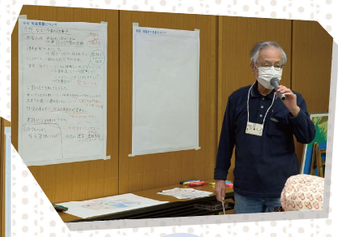
第４回ワークショップについて

前回ワークショップに引き続き、「憩い・交流」「防災」「自然・歴史」の３つのグループに分かれて、「来年度の社会実験」「紫金山公園の目指すべき姿（案）」について話し合いました。

開催日時：令和７年２月 11 日（火・祝）14：00 ～
開催場所：吹田市立博物館
参加人数：26 名（うち、お子さん２名）

来年度の社会実験

11月に実施した社会実験を踏まえて、地域の将来を見据えた視点で来年度の社会実験について考えてみました。



グループワークでの主な意見

社会実験での課題
- 事前調整や連絡方法での、参加者と事務局の間のズレがあった。
- 当日の役割分担が不十分だった。

学校との連携強化
- 市内の小・中・高・大学生を巻き込んだプログラムの検討。 憩い

防災・実践的な訓練
- 防災訓練やナイトキャンプ、星空観察などを取り入れて、リアルな体験の提供。 憩い 防災 自然
- かまどベンチのような実践的な訓練の場の設定。 防災
- 伐採体験など南側を主にした実験検討。 憩い 自然

生物多様性について
- 釈迦ヶ池の清掃・生物調査・釣り大会などを通じて、環境教育の機会を提供。 自然
- 生物多様性をテーマにした「生き物を探す」プログラムの検討。 自然
- 動植物の調査・観察、外来種の駆除。 自然

整備について
- 名神下通行・バリアフリーなど公園周遊を促進。 防災 自然

教育的要素の強化
- クイズラリーのように、学びや楽しさを併せ持つプログラムの検討。 自然
- 博物館を活用して、自然や歴史を学べる場所としての役割の強化。 自然